

論文執筆要綱

この執筆要綱は原稿を和文で記述する場合に用いる。原稿を英文で記述する場合は、Writing style of manuscripts を、別途用いる。和文の原稿は本執筆要綱に従い、和文のサンプル原稿をダウンロードして作成する。

(I) 原稿体裁

1. 研究論文、技術論文、速報（以下、論文等）は、表題・著者名・英文概要・本文・参考文献・付録からなる。刷り上がり状態における原稿の分量は、研究論文 8 ページ以内（最大 12 ページ）、技術論文 4 ページ以内（最大 6 ページ）、速報 2 ページ以内を原則とする。
2. 第 1 ページには、まず表題・著者名を和文および英文で記入し、その後に英文概要を 300 語以内にまとめる。
3. 英文概要の後に、Key Words： に続いて 5～10 語のキーワードを学会のホームページに掲載されたキーワード集を参考に英文で付す。
4. 本文は二段組にして、キーワードの後に続ける。
5. 各段組の 1 行は 25～26 文字、2 ページ以降の一段は 48 行を標準とする。
6. 第 1 ページには、体裁見本のように、左コラムの下に脚注を設ける。
7. 図、表、写真は本文中に割り付けて貼る。

(II) 文章表記上の注意

1. 原稿は簡潔な表現により横書き口語体とし、常用漢字および新かなづかいのひらがなを用いる。ただし外国語はカタカナまたは原語のままとする。
2. 論文等の表題および副題のフォントは、和文はゴシック、英文は Times New Roman のボードを使用し、表題は 14 ポイント、副題は 12 ポイントとする。また著者名のフォントは、和文は明朝、英文は Times New Roman を使用し、どちらも 12 ポイントとする。
3. 英文概要のフォントは Times New Roman、9 ポイントを使用する。
4. 本文のフォントは明朝あるいは Times New Roman、9 ポイントを使用する。
5. 文部科学省、JIS で定められた学術用語、記号、定義があるときはこれに従う。
6. 単位は原則として SI（国際単位系）を用いる。
7. 見出しは 1. のように番号付けし、行の中央に置く。小見出しは 1.1 のように細目番号付けし、行の左に置く。見出しおよび小見出しは、和文はゴシック、英文は Times New Roman のボードを使用し、見出しは 10.5 ポイント、小見出しは 9 ポイントとする。

(III) 数式・記号の字体指定上の注意

1. 量を表す文字（例： x 、 p 、 Q ）はイタリック体を使用する。

2. 単位、数字および点や位置や物を表す文字（例：7 MPa、3 m/s、点 A）、ならびに数学記号（例：log、ln、sin、cos、tan、lim、exp）および元素記号はローマン体を使用する。
3. ベクトルや行列はボールドイタリック体を使用する。
4. 単位には括弧をつけない（例：7[MPa]ではなく 7 MPa、 b [m]ではなく b m）。

(IV) 図表作成上の注意

1. 図表にはそれぞれ Fig. 1、Table 1 のように番号を付け、続いて英文による説明（caption）を書く。図表の説明（caption）は Times New Roman、8 ポイントを使用する。図表中の文字も英文とする。本文中で図表を引用するときは、Fig. 1、Table 1 のように表記する。
2. 図中の文字や記号は、その大きさや線の太さに注意し、文字は読める大きさにする。
3. 図中の英文は、原則として、最初の文字を大文字に、他は小文字にする。

(V) その他

1. 引用文献は関連箇所の右肩に番号を¹⁾のように記入し、本文末尾に下記の形式で記載する。なお、フォントは本文と同じである。

論文や学会誌などの場合 1) 著者名：論文名，誌名，Vol. ○，No. □，p. △-▲（発行年）

単行本の場合 2) 著者名：書名，出版者，p. △-▲（発行年）

2. 脚注は本文の下に横線を引いてその下に記入する。脚注の文字は 8 ポイントを使用する。記号はページごとに*、**のようにする。